

全国市長会へのメッセージ

去る3月11日に発生いたしました東日本大震災に関し、東北75市を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

まず、本日お集まりの皆様を始め、全国の各市長におかれましては、このたびの震災におきまして、飲料水や食料等の物資の提供を始め、人命救助、ライフラインの復旧等に従事する職員の派遣等、数多くのご支援を賜りましたことにつき、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

我々東北の各市におきましては、これまでも多くの震災を経験し、その対策に努めて参りましたが、このたびの地震は、その想定を遥かに超え、東北地域において2万人を超える死者、行方不明者を出すとともに、東北全体で20兆円を超える被害をもたらしました。被災からまもなく1ヶ月が過ぎようとしておりますが、未だ沿岸部を中心に15万人にもおよぶ方々が厳しい避難所生活を余儀なくされており、生活必需品等の物資や支援要員等の不足から日常生活にも甚大な影響が生じております。

更に、東京電力福島第一原子力発電所における放射性物質の漏洩については、近隣住民に対する影響、農畜産物の出荷制限や水道水の使用制限等、一向に事態の収束する兆しが見えず、時間が経つとともに明らかになってくる地震被害の凄まじさと相まって、復旧・復興を目指す被災自治体に重くのしかかっております。

このたびの災害は、甚大な被害が広範囲にわたり、現行の災害対策法制の想定を超えた、まさしく国難というべき大災害でありますことから、復旧・復興に向け、新規立法措置を含め、既存の枠組みを超えた強力な支援方策の構築に国の総力を挙げて取り組んでいくことが必要不可欠でございます。

一方、こうした厳しい状況下におきましても、勇気付けられることもたくさんございます。全国の自治体や企業からは、力強い人的・物的支援が続き、避難生活を続ける方々の中にも子供達を始めとして、この試練の時を乗り越えていこうという決意に溢れた笑顔が垣間見えるようになって参りました。

再生への道のりは先の見えない、気が遠くなるようなものかもしれませんが、東北地域のみならず、まさしく全国市長会一丸となって、今日の一步、明日の一步と進んでいくことで、必ずや復興できるものと確信しております。

最後になりますが、震災後、多くの方々が東北地域から全国各都市へと避難いたしました。いずれも大変温かく迎えていただき、特段のご配慮をいただいておりますことに改めて御礼申し上げますとともに、一日も早い復興に向け、東北75市の総力を挙げて取り組んで参る決意を述べまして、東北75市を代表しての挨拶とさせていただきます。

平成23年4月6日

東北市長会長 仙台市長 奥山 恵美子